

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500194	事業の開始年月日	平成24年2月1日	
		指定年月日	平成24年2月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵横浜みなみの丘			
所在地	( 〒232-0066 ) 神奈川県横浜市南区六ッ川3-26-6			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
		宿泊定員	5名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成24年11月24日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎月スタッフ会議で30分研修の時間を取り様々な研修を行っている。イベントや行事にも力を入れています。ご利用者を飽きさせない環境作りを行っている。2階3階に高齢者マンションが併設されているので住み慣れた社会資源をいかし生活することもできます。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年12月12日	評価機関 評価決定日	平成25年1月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇事業所は同じ建物内に「高齢者住宅」と「デイサービス」が併設されている複合施設であり、事業所登録定員の半数が高齢者住宅の居住者であるため、利用者や地域住民にとって、事業所は身近に利用できる地域の福祉拠点としての機能を持ち合わせている。                  ◇事業所やデイサービスが開催する各種の行事等を通じて、地域の高齢者との間に、自然に仲間意識が生まれ、地域住民との交流の機会に恵まれている。                  ◇今年度から事業所独自の理念として「明るい挨拶、きれいな施設」を設定して、全職員が話し合っって課題を解決しサービスの向上に努めている。</p> <p><b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇携帯電話を持ち、他の情報機器も慣れている利用者が多く、職員は機器の使い方の相談等にも応じて、利用者や家族との連絡・情報の受発信にも活用している。                  ◇年間研修の中に外部研修を位置づけ、参加できなかった職員に研修時間を設け、同じ研修内容を学習して全員の共通理解に努めている。                  ◇安全・安心して入浴してもらえるように、浴室には引き戸のほかにカーテンを付けて目隠している。さらに、稼働式の浴槽を採用して、利用者が浴槽に入る動作を容易にし職員の入浴介助の軽減にも対応している。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵横浜みなみの丘
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフと話をしセンターの理念を作り、管理者を中心に実践している。	・今年 事業所独自の理念として「明るい挨拶、きれいな施設」を設定し、法人の理念と併せて会議等で確認し実践している。 ・特に送迎時の利用者と家族への明るい挨拶を皮切りに、笑顔でのサービスに力を入れている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所より様々なボランティア様に来て頂いていたが現在は日本舞踊の方もお招きしている。	・自治会に加入し、地域情報は運営推進会議の委員や回覧板から得て、地域の防災訓練や注連縄作り、運動会に職員と一緒に参加している。 ・ハーモニカや琴演奏等ボランティアの来訪があり、利用者と一緒に楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じご家族、地域包括の方に話をしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて様々な意見を聞いている。頂いた言葉はスタッフに伝えサービス向上に努めている。	・運営推進会議は、利用者・家族、民生委員、及び地域包括支援センター職員と事業所職員をメンバーとして、3か月毎に開催している。 ・会議では、事業所の現況と活動報告の後、意見交換して内容に応じて運営に反映している。	運営推進会議の意義を踏まえて、2か月毎に開催することが望まれます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括と連携を密にとっています。南区の保健師とも連絡を取っています。	・区の高齢者支援課や福祉課、地域包括支援センターとは、状況を報告し連携を密にしている。 ・運営推進会議の議事録は、担当窓口へ直接届け、事業所の現況を報告し意見を交換して助言を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で学んだ事はセンター内の30分研修で共有する。	・重要事項説明書の中に、身体的拘束を行わない旨明記している。 ・職員は、法人内の研修に参加し、事業所での30分研修を行って、拘束しないケアを徹底している。 ・玄関は防犯面から電子錠を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に身体に注意しアザがあった場合記録に残している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は理解しているがスタッフ全体には理解されていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	プランを作成し担当者会議にて納得して頂き契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価のアンケートを参考にします。	・家族の要望や意見は、運営推進会議の他、連絡ノートを活用し、また、送迎時家族から直接聞き取り、その都度カンファレンスで検討して、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	すばやい対応を心掛けています。	・職員は、各種の委員会に所属して意見を交換し、意見や提案はその都度スタッフ会議で検討して、運営に反映している。 ・「事業所内に緑を」との職員の提案で、玄関等に鉢植えを置くなどの事例が上げられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人主観が違う為把握しきれしていない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修に積極的に参加して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	六ッ川地域ケアプラザ等の研修には参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を解消できるような環境作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が施設に対し不安がある場合は施設見学して頂き日常を見て頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初から多く利用するのではなく状況におおじて、利用日を増やす。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物ツアーやレクを通じて生活を共にする意識を職員にもってもらっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の介護力を理解し、家族の同意のもとサービスを決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	南区を中心に外出・買い物に出かけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が地域の行事や趣味の教室に参加するなど、従来の人との関係が継続することを支援している。</li> <li>・毎月、買い物ツアーを企画して、地元のスーパーに出かけている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや体操に参加して共通の楽しみを見つけて頂く。孤独を決して作らない。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族より要望がある限り相談に乗ります。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメント・モニタリングを通じ実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用前に計画担当者が家庭訪問して記入したフェイスシートで、利用者・家族の要望や意向等を把握している。</li> <li>・その後は、日常生活の中から利用者の思いや意向を把握し、会議を通じ職員間で共有している。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関や家族より情報提供して頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	フェイスシートを使いサービス前に把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に職員でモニタリングをしている。	・利用者・家族の要望を基にモニタリングや看護師の助言等を参考に、カンファレンスで意見を交わして介護計画書を作成している。 ・介護計画は、短期で3か月毎に見直し、状況によってはその都度検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変かは記録に残す。プランへも反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護度にもよるが家族の介護力を見てサービスを入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは積極的に受け入れています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家族に主治医を決めて頂く。主治医が居ない場合は往診して頂ける医者を紹介している。	・殆どの利用者は従来からのかかりつけ医を利用しており、受診には家族が同行している。協力医療機関での受診は緊急時のみである。 ・歯科医は希望者に対し訪問治療に当たっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者ごとにケースに記録、記入している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月一の営業の際に病院の相談委員と話をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込みは家族と相談して進めている。	・利用者が急変した場合の対応については、契約時に家族に現状を説明し、その都度相談して対応している。現状では、重度化した場合には、特養や老健を紹介することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修は年間計画の中に含まれている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より、施設を使い訓練がしたいなどの相談を頂き12月14日に実施予定。	・年2回、消防署の指導を得て非常通報システムの稼動点検や避難訓練を行っている。 ・地域との防災協定を検討中であり、非常用の食料・備品は、3日分を備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修にて全職員意識している。	・入社時の3か月のOJTのほか、接遇マナーの研修で利用者への接し方や言葉遣いを学び実践に活かしている。 ・個人情報の書類は鍵付き書庫に収納し、パソコンはパスワードを用いて情報の管理に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1日の流れの中でご本人の意見を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが日によって変えたり、利用者ごとに変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットサービスを入れ希望の髪型にして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人食事形態は変えている。昼食を一緒にとる事で絆を深めている。	・献立・食材は業者に委託し、昼食は専任の調理師が作り、朝と夕食は職員が作っている。利用者はコップ洗いや片付け等を手伝っている。 ・月に1回は利用者と一緒に作る「おやつレク」を実施している。 ・ときには店屋物をとったり海鮮丼を食べに出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を使い午前・午後と確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施。訪問歯科も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を毎日つけている。	・排泄表をつけ、必要な方には声掛けして自立への支援を行い、トイレでの排泄が可能になった例もある。 ・同性介助を基本とし、失敗しても他人に分からないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューは配食サービス先で決められている。バランスは整っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り本人の希望に添える様に実施している。	・午前中の中の入浴が多いが、利用者は希望する時間に入っている。 ・身体に不具合があっても、容易に浴槽に入れる移動式の浴槽である。 ・ゆずや菖蒲湯などのほか、入浴剤を入れることもあり、ラジオを持ち込んで楽しむ利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる方には個室を用意しプライバシーが守れるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の表は個人ファイルに挟んであるので職員には見る様に徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味がある方には提供している。外出を定期的に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが月に1度程度外出し歩行訓練も行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外出は、通いの時間内では余裕がないこと、進入路が急坂の為、転倒の恐れがあるので、敷地内の散歩等に止まっている。</li> <li>・車で買い物に行ったり、真鶴や保土ヶ谷球場等に遠出することもある。</li> </ul>	・周辺が急坂の為、敷地外への外出や散歩が容易でないため、ボランティアや家族の協力を得て、車や車いす等を利用して、戸外に出る機会を作ることが望まれます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自分で。管理できない方は事務所で預かりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいとの要望があった際は施設の電話をお貸しして入る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し清潔を保っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共用空間には床暖房、エアコン、加湿器が備えられ、利用者の体感に合わせて温度を調整している。</li> <li>・居間には円卓を置き坪庭もあって、寛げる環境に配慮している。</li> <li>・クリスマスツリー等季節のものが飾ってある。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	宿泊にて1人の空間、通いにて周りの方とのかかわりをもって頂く。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望されるものを自宅よりもってきていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落ち着いた色のベッドやタンスを置いて、家庭的な居室環境を整えている。</li> <li>・利用者は着替えの他、テレビやラジオ、パソコン等好みの物品を持ち込んでいる。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけ、車いすでも十分に通れる通路を確保している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ白寿庵横浜みなみの丘

作成日 平成25年1月14日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催時期について。	概ね、2か月に1回開催できるように働きかける。	会議参加者の都合がつかず、開催時期がずれ込んでしまったことがあった。早目から参加者に通達を出し対応していく。	今月から実施。
2	49	外出の機会を増やしてみてもどうか。	計画的に外出レクの日を組む、ニーズに合わせて実施する。	季節に合わせた外出先の検討が必要。この時期はインフルエンザやノロウイルスが流行っているため控えるが、気候が安定したら実施する。	3月度から実施。
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。